



3 サンフランシスコ港の概要と取組み状況

モニク・モイヤー港湾局長（サンフランシスコ港）による開会あいさつの後、参加港最初のプレゼンテーションとして、ピーター・デリー海事部長、バイロン・レット計画開発部長2名により、サンフランシスコ港の状況について報告がありました。

サンフランシスコ港の管理は、1969年に州政府からサンフランシスコ市長により任命された港湾委員会委託へと移管され、実務部隊である行政部は、サンフランシスコ市の

一組織として機能しています。組織的には、ル・アーブル港やメルボルン港のように地方政府から独立した団体とは異なり、大阪港により近い形態です。

サンフランシスコ港は、サンフランシスコ湾の海岸線の半分を超える7.5マイルのウォーターフロント、約1800万平方フィートの賃貸スペース、3マイルのストリート・サイドウォークおよび公共インフラを管理し、39の杭打ち棧

橋・埠頭、245の商業・業務ビル、および天然の深水港を資産として保有しています。

サンフランシスコ湾内の海流の関係で、サンフランシスコ市沿岸は深いところで20m位の水深が保たれているとのことです。土地は州政府

が所有しており、その開発および管理をサンフランシスコ港が行う、という構図です。ドックや建物などの上物はサンフランシスコ港の所有になります。



サンフランシスコ港の使命は、臨海部の商業・航行・漁業の促進、天然資源の保護、ウォーターフロントの利用・集客促進となっており、対岸のオークランド港においてコンテナターミナルの整備が進んでいますが、湾内の5港で競い合いながらも棲み分けがなされており、現在では、国際観光都市サンフランシスコの観光資源的な側面が強く出ています。

サンフランシスコ港が強みとしているところは、以下のとおりであり、昨今では、物流よりも集客機能にシフトし、臨海部の再開発を積極的に行っています。

- ・バルク貨物船ターミナル
- ・船舶修理(ピア70に大型客船の修理も可能なドライドックがあります)
- ・観光船ターミナルおよび岸壁
- ・業務ゾーン開発
- ・FTZ
- ・商業漁業
- ・客船
- ・釣り(レクリエーション・マリーナ)
- ・フェリー・ターミナル
- ・港湾サービス
- ・世界レベルのレストラン
- ・Aクラスのオフィス・スペース



ピア70のドライドック